

「小山田小学校の太鼓踊り伝承活動の取組」

1. 学校名	鹿児島市立小山田小学校
2. 学年・人数	5年 4人 6年 11人 計15人
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 令和6年2月～10月 総合的な学習の時間 学校体育館及び校庭 (2) 発表の日時・場所 令和6年 5月19日(日) 小山田大運動会 令和6年 7月28日(日) 小山田町夏祭り 令和6年10月19日(土) さつまっ子育成市民大会
4. 伝承・活用に 取り組んでいる 郷土芸能、伝統 行事、伝統工芸 品について	(1) 名称 小山田太鼓踊り（こやまだたいこおどり） (2) 由来 小山田町に伝わる伝統芸能で、豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に、島津義弘が武士たちの士気を高めるために始めたと言われている。その後も雨乞いや農作物の虫除けを祈って諏訪神社への奉納が行われたという。戦後に途絶えていたが、1965年に復活した。 (3) 構成等 太鼓と鉦に分かれて踊る。太鼓の人数の方がやや多い。独特のリズムがあり、それぞれ1番道、2番道、3番道...と呼ばれる踊りの型がある。それらをいくつか組み合わせて、隊形を変えながら踊る。 太鼓は白い衣装を身に付け、飛び跳ねながら太鼓を打ち、力強く手をまっすぐ上に伸ばす。鉦は黒い衣装を着て約3kgの重い鉦を片手で掲げ、リズムよく鉦の音を響かせる。
5. 文化財伝承・ 活用の取組にお いて地域との連 携や工夫した点 等	学校と地域が連携しながら太鼓踊りを継承していくために、教育課程の総合的な学習の時間に位置付け、いわれを調べたり、練習をしたりしている。地域の保存会は、踊りの指導や発表時の着付け、道具運搬など全面的に協力している。また、保護者や職員向けの着付け講習会も行った。踊り手の高齢化が課題で町内で踊り手を募集し、神社や祭りで披露するなど後継者育成に取り組んでいる。
6. 取組の様子 （練習状況、発 表の場等）	 小山田町夏祭りで発表  さつまっ子育成市民大会で発表
7. 感想・意見 （参加児童生 徒・保護者・ 保存会・教員 等）	【児童】積極的に声を出して、みんなをまとめることができた。 【職員】保存会が全面的に協力してくださるので助かる。 【地域】町内の大人の踊り手も増え、いろいろな場で披露することができた。児童にも受け継いでいったほしい。 【観客】迫力があり、伝統を受け継いでいることがすばらしいと思った。